グアナファト広島フードフェスティバルが3年ぶりに開催されました

コロナウイルス感染拡大により2020年、2021年の2ヵ年開催を見送ることになりましたが、 今回で第6回となりますグアナファト広島フードフェスティバルが2019年7月以来、3年ぶりに 11月3~5日の3日間、レオン市、イラプアト市、サラマンカ市の3会場で開催されました。

今回は、広島市中区にある料理店 "稲茶"の下原氏、大竹市にある料理店 "魚池"の池田氏、そして同店所属で「ひろしま和食料理人コンクール」で優秀な成績を収めた保家氏、藤井氏を合わせて4名の料理人がグアナファト州に派遣されました。



また、現地では日本料理店など多くの店舗を展開するフェリペ氏が代表を務めるFYNSOグループのセントラルキッチン、各店の料理人やスタッフなどの全面的バックアップを受け、さらに料理の仕込み準備のためにレオン市内にあるSALLE大学調理学部の厨房をお借りし、同大学から選抜された6名の学生が実習生として参加してくれました。そして今回もグアナファト広島アミーゴ会、MMVO(マツダメキシコ工場)からは、車での移動や通訳などの支援をいただき、開催に向けて万全の態勢で臨むことができました。



SALLE 大学の厨房で仕込み開始前の打合せ



広島・グアナファトの料理人の融合で、素晴らしい料理が提供されました

11月3日レオン会場 (Casa de Piedra) には、280名、4日イラプアト会場 (Sushi-tai) には、150名、5日サラマンカ会場 (Casa de la Cultura) の最終日には、170名、計600名の皆様をお迎えしました。

レオン会場には、ディエゴ・シヌエ・ロドリゲス・バジェホ グアナファト州知事夫妻をはじめ、州 政府から経済開発局長、観光局長、保健局長、レオン市からは経済再活性化局長、さらにはミゲル・マルケス・マルケス前州知事夫妻、エクトル・ロペス・サンティジャナ前レオン市長、板垣レオン総領事など多くの要人も参加され、3年ぶりの開催を待ち望んでいたとの声をたくさん聞くことが出来ました。

また、翌日イラプアト会場には、ロレナ・デ・カルメン・アルファロ・ガルシア イラプアト市長が 参加されるなど、3日間、3会場共に大盛況のうちに終えることが出来ました。

3年の歳月を経て、グアナファト広島フードフェスティバル開催に向けて、関係各位の熱い思いが 開催に漕ぎ着けたと思います。関係各位に対して、あらためて感謝申し上げます。

■11月3日、レオン会場

















■11月4日、イラプアト会場













■11月5日、サラマンカ会場















